

特集 海外との交流で わがまちを見つめ直す



国際化や情報化の進展により生活・経済圏が拡大し、人々は自分の住んでいる地域を拠点としながら、多様な交流を進めています。

登別市は、古くから温泉観光地として栄え、国内・外を問わずさまざまな交流の中から生まれたエネルギーを生かし、近隣自治体と連携したまちづくりを進めています。

今月号は、『国際観光レクリエーション都市』を宣言している登別市と、つながりのある海外のまちとの交流について紹介します。

わたしたちの生活は、交通やインターネットなどの急速な発達に伴い、経済や私的な旅行、買い物などの全般にわたって国際化が進展しています。かつては国レベルでの取り組みであった国際交流が、近年は地方公共団体や民間団体、さらには地域や個人レベルでも行われるようになってきました。

国内における交流はもとより外国との交流を広く進めることは、異文化交流や他地域との情報交換により自分たちの地域が持つ特性や魅力などを再認識できるとともに、そこで得た情報などを生かした新しいまちづくりが可能となり、地域の活性化にもつながります。

また、国際交流が進展し、地域住民が直接国際交流活動を行うことで、世界に貢献するという意識が、世界平和への貢献にもつながるようになります。

登別市と歴史や文化などがかかわりのある海外のまちとの交流は、わたしたちが異なる生活や文化などを学び、国際理解や国際感覚を身に付ける重要な要素であることから、市はこれまで平成9年5月にデンマークの『リングゲ市』・『ウイスリング市』と『友好の絆』、平成14年5月に中国の『広州市』と『友好交流促進都市』、平成18年11月に北マリアナ連邦の『サイパン市』と『友好都市提携同意書』を締結し、市民主体の交流を行ってきたほか、市もさまざまな事業に取り組んできました。

リングゲ市とウイスリングゲ市は、今年1月に近隣自治体と合併し、『フアボー・ミッドフュン市』となりましたので、現在、この新市と『友好の絆』を継続することで調整を進めています。

また、登別市は豊かな自然と豊富な湯量に恵まれた国内有数の温泉観光地です。心身を健やかに生活を楽しみ、明日への活力を求め、世界の人々が集う『温泉郷のぼりべつ』を目指して、『国際観光レクリエーション都市』を昭和61年に宣言。登別観光協会などと誘客のプロモーション活動を東南アジアを中心に進めて